

## 学力向上研修会や拠点校の取組等を授業改善に生かしましょう！

6月20日に行われた学力向上研修会の講師 齊藤一弥先生には、昨年度の拠点校研修会でもご講演いただきました。その内容「改訂が目指す授業づくりの基本『自立・協働・創造』」「内容重視から能力重視へ」は、H28 あしすと第25号に掲載されていますので併せて参照ください。(HP掲載)  
参加された先生方が中心となり、これらの内容を校内研修会等でぜひ広めていただきたいと思います。

がんばろう  
富山の先生！



平成29年度 学力向上研修会 (H29.6.20)

### 「新学習指導要領が目指すこれからの授業づくりの在り方」

齊藤 一弥 先生



今回の学習指導要領の改訂を授業づくりを見直す機会にしましょう。

## 近未来を生きる 富山の児童生徒を育てるために 「深い学び」を目指す授業づくりのポイント

### ①授業の「まとめ」「振り返り」を見直しましょう！

新学習指導要領に示されている育成すべき資質・能力を確認することが大切です。

- 本時のねらいが評価できる「まとめ」「振り返り」になっていますか？
- 資質・能力の成長や、教科ならではの見方・考え方の変容を自覚(メタ認知)できるようになっていますか？

(例)「〇〇が分かった」だけでなく

→「～の場面で使えそうだった」

「最初は難しそうだったけれど、共通点が見つかった」

「～に着目したり、～で比べたりすると解決できそう」



### ②まとめに至る授業構想(展開)を見直しましょう！

教師の構想が子供の思考の流れと乖離していると、教師は教えているのに子供は何を学んでいるか分からないという状況になってしまいます。

- 教科の本質に迫る問題解決の過程を仕組んでいますか？
- 子供の思考に沿った問題解決の過程になっていますか？

限りなく  
近付ける

### ③子供の思考を深める「価値ある問い」となるように吟味しましょう！

例えば、既習の知識や技能を駆使することで解決の見通しがもてるような問いは、「単なる知識を、使える知識へ活性化させる価値」をもつといえます。

- 教科の本質に迫る問いになっていますか？
- 子供にとって考える必然性のある問いになっていますか？
- 知識や技能が活性化される問いになっていますか？

### 「深い学び」とは…

習得・活用・探究という学びの過程の中で各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、

- ・知識を相互に関連付けてより深く理解する
- ・情報を精査して考えを形成する
- ・問題を見いだして解決策を考える
- ・思いや考えを基に創造すること



「深い学び」をしない限り、教科の本質に迫っていくことができない

そのことを踏まえた授業づくりを！

### H28 小学校算数B

全国学力・学習状況調査では、問題そのものが授業場面になっています。

ともみさんの学校では、小学校に入学する前の子どもたちを招待して学習発表会を行います。子どもたちは、24人来る予定です。学習発表会では、来る予定の子どもたち全員に、メダルを作ってわたすことになっています。1人分のメダルの材料は、次のとおりです。



1人分のメダルの材料  
・80cmのリボン  
・円の形に切った厚紙



$$80 \times 24 = 1920$$



$$2000 \div 80 = 25$$



$$2000 \div 24 = 83.3\dots$$

先生は2000cmのリボンと、縦が39cm、横が54cmの長方形の厚紙を用意しています。ともみさん、はるおさん、あかねさんの3人は、リボンと厚紙が足りるかどうかに考えています。



リボンは足りません。

【学習課題】リボンが足りるかどうかを調べるために立てた式の意味や判断したわけを説明しよう。



式の意味を問題場面と関連付けて解釈し、その意味に基づいて的確に判断できるようにすることが大切です。

友達の立てた式の意味や判断の根拠と結論を説明する活動を取り入れましょう。

### 全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かす研修

要請訪問研修より



本校の研究主題や研究の視点に沿って、本校における授業改善のポイントを全体で共有することができました。

A小学校では、「主体的」「対話的」「思考が深まる」という言葉の具体を実際の子供の姿から明らかにして研修を進めています。全国学力・学習状況調査の自校採点の結果を基に分析を行い、課題や指導のポイント等について、A小学校の研究主題との関連を図りながら研修しました。



など